

2026–2027 年
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
共同利用・共同研究課題（外国人客員共同研究型）公募要項

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（以下、AA 研）では、「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点」の活動の一環として、2026 年から 2027 年の間、外国人（客員）研究員が AA 研に一定期間滞在して、所員とともに共同利用・共同研究課題を公募いたします。

なお、本研究所が募集する、あるいは現在継続している東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題（「KKLO 実施分」「若手向け挑戦枠」を含む）における共同研究員（代表者、副代表者を含む）であっても「外国人客員共同研究型」に応募することができます。

1. 共同利用・共同研究課題の要件

- 1) 外国人研究者が、2026 年から 2027 年の間、AA 研に一定期間滞在して、所員 1 名以上と行う共同利用・共同研究課題であること。
- 2) （日本を除く）アジア・アフリカ地域と関連する内容であること。
- 3) 言語学、文化人類学、歴史学、地域研究の分野であること。
- 4) 研究課題終了後に、論文を執筆するなどの形で共同研究の成果を公開すること。

2. 応募者の要件

応募者は、以下のすべての要件を満たすこととします。

- 1) 原則として日本国外の学術研究機関に在職する外国籍の常勤研究者であること。（但し、日本国籍の方でも、日本国外の学術研究機関において概ね 10 年以上にわたり、原則として常勤研究者として活動している方は応募可能。）
- 2) 客員教授又は客員准教授としての研究上の能力を有する研究者であること。
- 3) 研究遂行上、健康状態に問題がないこと。

3. 募集件数

5 件程度

4. 研究期間

研究期間は、2026 年 9 月から 2027 年 8 月までとします。採用者は、研究期間中は共同研究員の身分を持ちます。

5. 滞在期間

研究期間のうち、4 ヶ月以上 6 ヶ月以内、外国人研究員として AA 研に滞在するものとします。滞在期間は、①第 1 ターム（2026 年 9 月～2027 年 3 月）もしくは、②第 2 ターム（2027 年 4 月～7 月）のいずれかのなかで、連続する 4～6 ヶ月を選んでいただきます。AA 研に滞在しない期間は、どこで課題の研究を続けられても構いません。第 1 タームと第 2 タームにまたがる期間をご希望の場合にはご相談ください。

6. 外国人（客員）研究員としての雇用要件及び待遇

- 1) AA 研滞在中は、東京外国語大学の規程に基づき、給与を支給します。（申請者は給与を受給する資格があるか、勤務校や居住国へ申請前に確認すること。）
- 2) 滞在中は、研究室を貸与するとともに、本研究所の施設・設備を利用することができます。宿舎については、本学の国際交流会館を貸与します。（家族同伴で滞在中の場合は、申請時に共同研究者の所員を通じて AA 研事務室に連絡すること。）
- 3) 社会保険制度が適用されます（雇用期間中）。
- 4) 規程に基づき、赴任及び帰国旅費を支給いたします。なお、家族を同伴される場合、家族にかかる旅費は支給されません。
- 5) 滞在中に当該共同研究に関する口頭発表、研究期間終了時に研究成果報告書の提出が求められます。
- 6) 滞在中は、AA 研を拠点として研究を行うこととします。海外出張・海外研修は国際研究集会で発表する場合に限り、その他の海外渡航については、「国立大学法人東京外国語大学職員勤務時間、休暇等に関する規程」（平成 16 年規程第 53 号）の定めるところにより、年次休暇の範囲で行っていただきます。

7. 応募書類と申請方法等

1) 事前協議

応募にあたっては、ご自身と一緒に共同研究をおこなう所員と研究計画について十分な協議を行ったうえで、その所員を共同研究者として応募書類に明記してください。本研究所所属の所員とそれぞれの専門領域については、4 ページの別紙を参照してください。

2) 応募書類と申請方法

応募書類は、英語ないし日本語で記載し、**ご自身と一緒に共同研究をおこなう所員へ提出**してください。所員は不足書類がないか確認のうえ、2025 年 11 月 28 日(金) (必着) までに、応募者から提出された応募書類を東京外国語大学研究協力課共同研究拠点係へ PDF ファイルで提出してください。

応募書類は以下の通り。[本研究所サイト](http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp)《<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp>》からダウンロードした書式を使用してください。

- ① 申請書、学歴書及び職歴書（所定の様式）
- ② 研究業績リスト（様式自由）及び主要業績 3 点
- ③ 共同研究の企画書（概要、研究の背景、共同研究者である所員の役割分担、期待される研究成果を必ず含み、A4 判 3 枚以内。なお、審査にあたっては共同研究参加者との共著書・共著論文執筆の計画が重視されます。）
- ④ 所属機関長または所属機関の部局長からの応募に関する同意書（所属機関のレターヘッド用紙）により作成してください。
- ⑤ 受入所員状況説明書（受入所員が作成すること）※下記 8. 参照

8. 「受入所員状況説明書」の作成と提出期限

7. 1) の共同研究をおこなう所員は、「受入所員状況説明書」を作成し、応募者から提出された 7. 2) の応募書類とともに、2025 年 11 月 28 日 (金) (必着) までに、東京外国語大学研究協力課共同研究拠点係へ PDF ファイルで提出してください。

9. 選考結果の通知

2026 年 3 月下旬までに、申請者に通知いたします。

10. ご質問等について

ご自身と一緒に共同研究をおこなう所員を通じてお問い合わせください。

教 授

荒川慎太郎：西夏語学，西夏語文献学

石川博樹：アフリカの歴史

太田信宏：インドの歴史

河合香吏：人類学，東アフリカ牧畜民研究

呉人徳司：言語学，チュクチ語

黒木英充：中東地域研究，東アラブ近代史

近藤信彰：イラン近代史

澤田英夫：ビルマ系少数言語の記述，東南
アジア大陸部インド系文字の体系

椎野若菜：社会人類学，東アフリカ民族誌

塩原朝子：言語学，インドネシア諸言語の記
述研究

高松洋一：オスマン朝史，古文書学，アーカ
イブズ学

外川昌彦：南アジアの人類学，インド・バン
グラデシュ研究

床呂郁哉：東南アジア島嶼部の人類学

中山俊秀：ワカシュ諸言語（北米北西海岸），
言語類型論，言語人類学

野田 仁：中央アジア史，露清関係史

星 泉：チベット文化圏の言語学

山越康裕：モンゴル諸語

渡辺 己：セイリッシュ語

准 教 授

安達真弓：ベトナム語，語用論，社会言語学

小倉智史：南アジア地域研究・歴史学

河合 文：人類学，東南アジア，オラン・アス
リ

倉部慶太：ジンポー語，チベット・ビルマ諸語，

児倉徳和：記述言語学，シベ語（満州語口語）

後藤絵美：現代イスラーム研究，ジェンダー

品川大輔：バントゥ諸語，記述言語学

吉田ゆか子：文化人類学，インドネシアの芸能・
宗教・仮面文化の研究

助 教

植田尚樹：言語学，音声学・音韻論，モンゴ
ル語

緒方しらべ：芸術の文化人類学，ナイジェリア
地域研究

神田 惟：イスラーム美術史，ペルシア語文化
圏文化史

黒沼太一：考古学，南東アラビアの歴史的景観
に関する研究

高橋洋成：ヘブライ語，セム諸語，アフロ・ア
ジア諸語の言語学

村津 蘭：文化人類学，映像・マルチモーダル
人類学，西アフリカの宗教